CLAUDE COMMUNITY TOKYO

Anthropic 公式資料の型

175 本の PDF を測って分かったこと

公開
2026 年 11 月 6 日

著者
岡本 賢

この資料について

Claude Community の資料を公式資料と同じ作法で作るために、Anthropic が公開している PDF を集めて測った記録です。数値は測定、見た目の説明は目視によります。

アンバサダー個人による独自制作資料です。公式資料ではありません。

Anthropic の公式資料は、どんな型で作られているのでしょうか。表紙の色、目次の有無、謝辞や出典の置き場所を、公開されている PDF で確かめました。

要点

- 公式資料は、表紙の色でほぼ型が分かれます。研究報告はセージ、Claude のガイドはテラコッタ、System Card や RSP は白です。
- Claude のガイド 17 本は、すべて横長で、すべて 2 ページ目に目次を置いていました。研究報告 14 本には、目次のあるものがありませんでした。
- 研究報告は 14 本すべてが表紙の下に謝辞を置き、多くが最後に引用のしかたと出典を置いていました。ガイドには謝辞も出典の章もほとんどなく、代わりにリソースの一覧と裏表紙で閉じていました。
- Claude Community の資料は、実践ガイド・報告・読み物を研究報告の型に、使い方の冊子を Claude のガイドの型に合わせて作ります。

はじめに

Claude Community の資料を作るとき、見た目をどこまで公式資料に近づけるかは、毎回の判断になっていました。表紙はどうするか、目次は置くか、出典はどこに書くか。そのつど決めると、資料ごとに形がばらつきます。

そこで、公式資料そのものを集めて、同じ物差しで測ることにしました。測った結果から型を決めておけば、次の資料は原稿を書くだけで済みます。

調べた範囲

2026 年 11 月 5 日から 6 日にかけて、anthropic.com、claude.com とその配信元、Anthropic の著者による arXiv から PDF を集めました。研究・報告が 63 本、安全性・方針が 52 本、事業・教育・ガイドが 40 本です。PDF のない Web だけの資料 32 件は、測定に含めていません。

これに、参照にした Anthropic Institute の報告、デザイン資料として手元にあった 8 本、Claude Community のアンバサダーキットの公式資料を加え、重複を除いた 175 本を測りました。測ったのは、判型、本文の文字の大きさ、見出しの段、書体、表紙の地の色、目次・要点・謝辞・付録・出典・引用のしかたの有無と位置です。

見出しは語の一致で探したので、章の名前が違う資料では数え漏れがありえます。

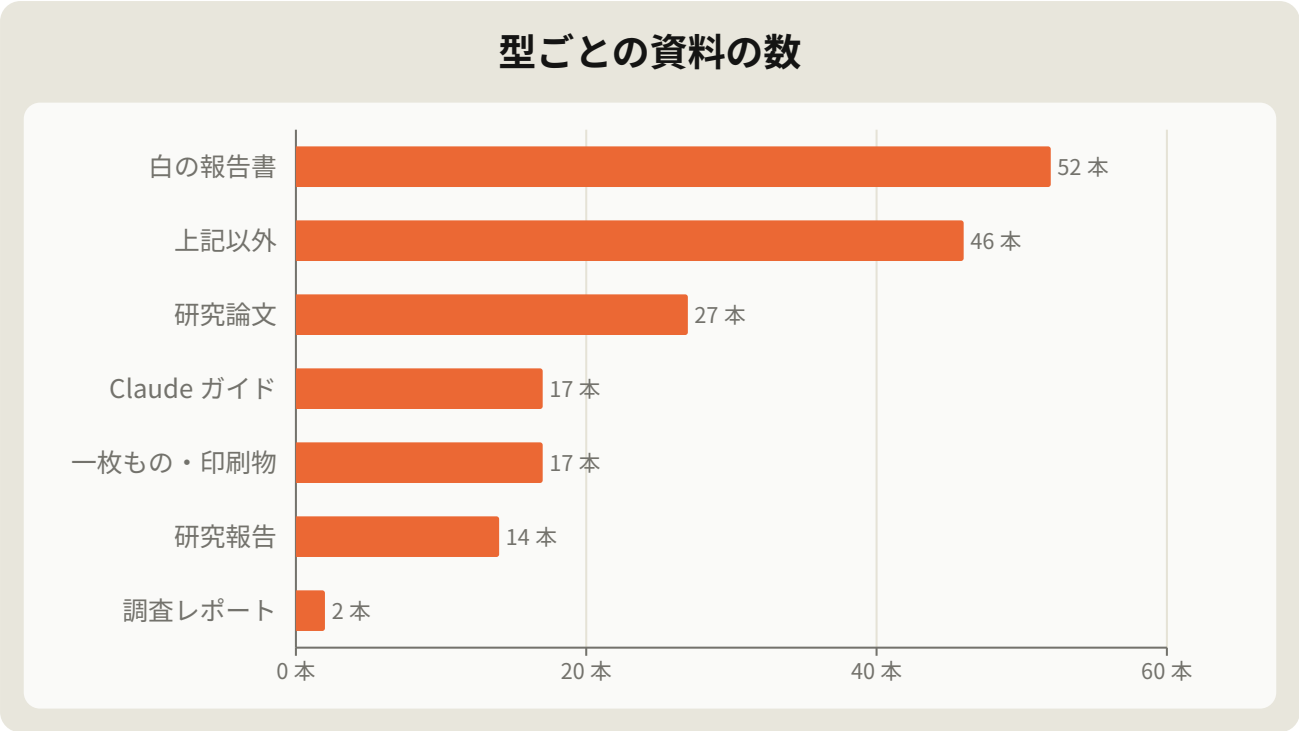


図 1：型ごとの資料の数
注：公式 PDF 175 本を、表紙の色と作成ソフトで分けた数。上記以外には、白い表紙の付録や報告で Google Docs 以外で作られたものを含む。

公式資料は、表紙の色で型が分かれる

いちばん多いのは白の報告書で、System Card と RSP がこの型です。白地の左上に ANTHROP\C、大きなセリフ体の題、日付、下端に罫と anthropic.com という表紙が、2025 年以降の版でそろっています。52 本すべてが Google Docs の書き出しでした。

研究報告は、Economic Index、Anthropic Institute、社会への影響の本体の報告です。セージの表紙に手のマーク、「Published」と「Authors」の 2 列、下に謝辞を置きます。付録は白い表紙の別冊にして、「Appendix to」と元の報告名を題にしていました。

Claude のガイドは、企業向けのガイドやプレイブック、業界別のガイドです。テラコッタの全面の表紙に、セリフ体の題と副題、左下にロゴを置きます。17 本すべてが横長の US Letter で、本文は 9pt でした。

研究報告とガイドは、置く部品が違う

研究報告とガイドは、置く部品がほとんど逆でした。研究報告は目次を置かず、2 ページ目の要点から入り、最後に付録、引用のしかた、出典を置きます。謝辞は 14 本すべてが表紙の下でした。

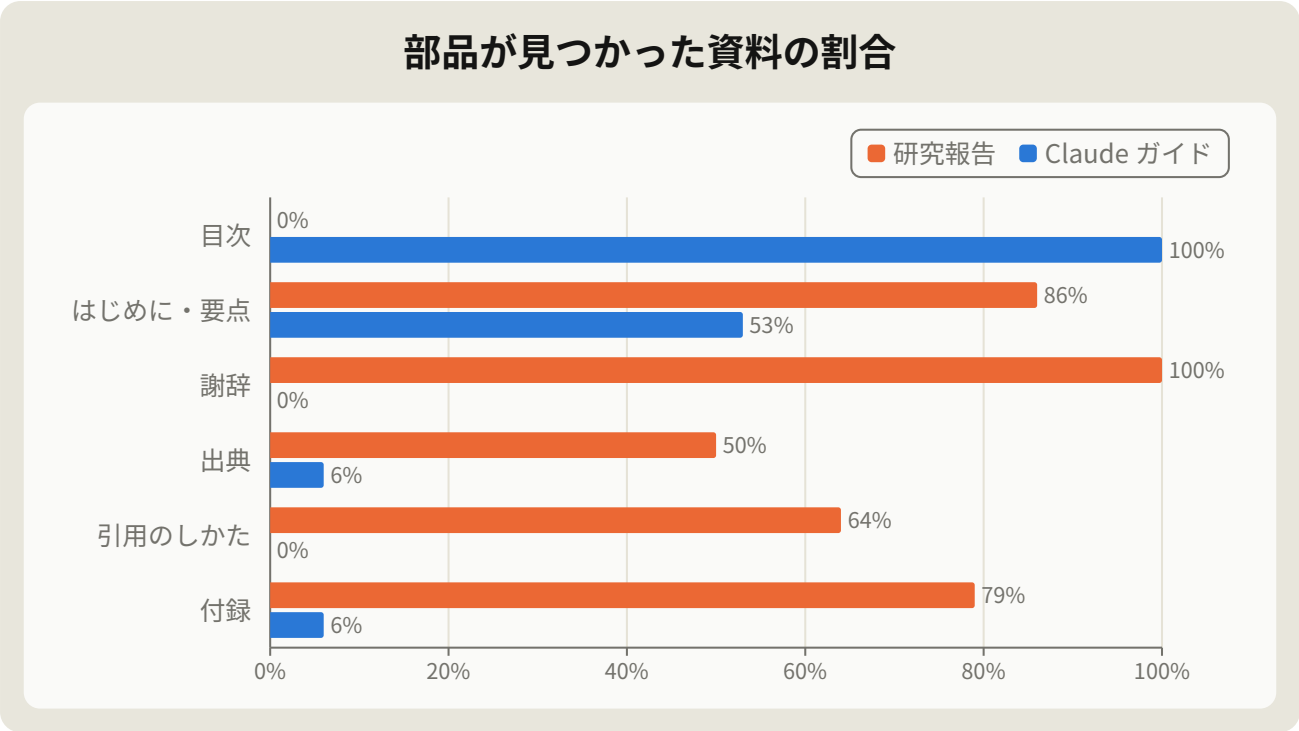


図 2：部品が見つかった資料の割合
注：研究報告 14 本と Claude ガイド 17 本で、それぞれの部品が見つかった資料の割合。見出しの語の一致で数えた目安。

ガイドは、必ず 2 ページ目に目次を置いていました。その次に Foreword を置くものは、17 本中 9 本でした。章の始まりには、くすんだ色の地に太い黒線の手描き挿絵を置いた全面の章扉があります。目で確かめたものは、次の一年に向けた章やリソースの一覧で閉じ、テラコッタの裏表紙で終わっていました。謝辞と出典の章は、ほとんどありませんでした。

書体は、2025 年の終わりに入れ替わった

Claude のガイドでは、2025 年までの版がセリフ体の Tiempos とサンセリフ体の Styrene で組まれていました。2025 年 12 月以降の版は、Anthropic Serif と Anthropic Sans に入れ替わっています。研究報告は Anthropic Serif Text と Anthropic Sans Text でした。

Claude Community の公式キットに入っている書体は、Anthropic Serif Display Light と Anthropic Sans Display Semibold の二つです。本文用の書体はキットにないため、この型では日本語と本文を Noto の明朝とゴシックで組み、表紙の題と英字だけにキットの書体を使います。

Claude Community の資料への当てはめ

測った結果から、Claude Community の資料を五つのパターンに分けました。

- **実践ガイド**　研究報告の型で組みます。セージの表紙、要点、原則ごとの節と図、引用のしかた、出典の順です。例は「ハッカソンのアイデアの作り方」です。
- **読み物**　研究報告の型に章扉を足します。セージの表紙、章だけの目次、章扉つきの章、出典の順です。
- **使い方の冊子**　Claude のガイドの型で組みます。テラコッタの表紙、目次、章扉つきの章、裏表紙の順です。手描きの絵は、ガイドと同じく章扉にだけ置きます。
- **活動・調査の報告**　研究報告の型に、グラフと調べた範囲の節を加えます。例はこの報告です。
- **1〜2 ページの要約**　表紙を付けず、題、要点、図を一枚にまとめます。

公式資料に独立したあとがきはありませんでした。読み物の「おわりに」は、ガイドが次の一年に向けた章で閉じる形にならい、章扉つきの章として置きます。

この調査の限界

見出しの検出は語の一致による目安で、章の名前が違えば数え漏れがありえます。図の数は「Figure」の行で数えたため、番号を付けないガイドの図は数えられていません。公開月の一部は PDF の作成日からの推定です。

集めた PDF は手元に置いたもので、git にも公開の場所にも載せていません。

引用するとき

```
@misc{okamoto2026anthropicdocs,
author = {岡本 賢},
title = {Anthropic 公式資料の型},
howpublished = {Claude Community Tokyo},
year = {2026},
month = nov
}
```

出典

岡本 賢（2026）「Anthropic 公式資料の収集」。2026 年 11 月 6 日時点で公開されていた PDF 155 本（研究・報告 63 本、安全性・方針 52 本、事業・教育・ガイド 40 本）。手元に保管、非公開。

岡本 賢（2026）「Anthropic 公式資料の型の研究」。研究ノート、非公開。

Anthropic Institute（2026）「How Employment is Changing at Anthropic」。2026-10-16